



佛教大学広報誌

B-ism

佛教大学

No.15

B-ism
no.15

発行日
2017年(平成29年)12月20日

発行者
田中 典彦

編集者
広報委員会

編集・発行
佛教大学広報課

〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL 075-491-2141(代表)
www.bukkyo-u.ac.jp/

撮影場所 紫野キャンパス



近年、「子どもの貧困」に対しても社会的関心の高まりが見られる。最近の調査では、国内の子ども人口の7人に1人が※貧困という数字も出ている。そのなかで大きな役割を果たすのは、社会福祉の分野だ。「子ども食堂」や学習支援をはじめ、福祉専門職と地域・市民の多様な取り組みも行われている。貧困等に起因する幸福を感じられない子どもたちの実情がどれほどのものなのか。福祉は、そして大学は何ができるのか。本学社会福祉学部の教員が社会福祉施設で尽力する

「子ども・若者の幸せのために、
社会福祉ができる」と

巻頭特集 | スペシャル座談会 **Special CROSS TALK**

教大学広報誌	B-ism	NO. 15 moku
8	6	2
学生編集室の窓	「密着！赤松ゼミ」教員・研究紹介	社会福祉ができるこ
———	保健医療体 赤松智	祉ができるこ
京都大波	———	と

14	13	12	10
			B-L-L 研究報告 —————
			社会科学部 公共政策学科 大藪俊志 準教授
			教育学部 臨床心理学科 牧剛史 准教授 宮間みや子著 [「島屋交説四物語」] ハコ一

16	初の結婚式を挙行	札撰堂(水谷幸正記念館)にて
21	BOOK Information 教員著書紹介版	ホトトギス、大学の動物
22	B-Information みんなの掲示板	ホトトギス、大学の動物

社会福祉学科
社会福祉学部
教授

エノカヘアストローブ 謎念
山王 こどもセンター 施設長

京都市南青年活動センター
チーフユースワーカー

社会福祉学科
講師

貧困が奪うのは 王位などすぐではない

加美嘉史（以下、加美）
日本の調査で相対的貧困率
が公表され、子どもの貧困
への関心は高まっています
が、この問題は、単に所得
が低いというだけではなく

前島麻美（以下、前島）
運営する「J王」（じょうわ）ンター」は、大阪市西成区・
ん、まずはお二人の取り組みで、子どもや若者の現実についてお聞かせ願えますか。

相対的に貧困層、生活保護受給者が非常に多い。センターでは0歳から18歳までの子どもであれば、障がいの有無や家庭の事情にかかわらず受け入れています。異年齢の交流を通して伸び伸びと育つことをモットーとしています。例えば、小学校4年の男の子の家は、父親があまり働かず母親が支えているんですが、子どもは放置。不安定に育ち、発達障がいの診断を受けています。最初は乱暴でワガママな面も見られましたが、センターに来て半年で

長瀬正子（以下、長瀬）
山王はト田ですが、実際
に街を歩くと近接する阿倍
野区の旭町には、マンシッ
ンなど高層ビルが立ち並
び、その差異に驚かされま
す。地域性とそこに住む子
ども、家族を丁寧に見るこ
とから支援のありようが決
まることが多い。

前島 週2回、職員と二人で食事をするようにしただけです。大人を独り占めで生きる喜びを感じてもいいながら、スキンシップを増やしました。同じ注意でも人前と一対一とでは子どもの受け容れ方が全然違う。母親にも、その子の良いところか?

私は京都市ユースサークル協会の職員として、「青少年活動センター」に勤務しています。市内の13歳から30歳までを主対象に放課後や仕事のあとに自由に入り出しきる居場所で、ベースの運営やボランティア活動等を通じた若者の成長支援に携わっています。課

題が感じられない利用者も多いのですが、利用者と関わる中で貧困が表面化していくことがあって、「今日の夕飯がない」「幼い弟の世話をしなければならない」と話す若者もいます。実感するのは、若者の変化です。以前は暴力行為などの「非行」が目についている

初心を大切に、あきらめないで

ある日の
赤松ゼミ

文献研究の意義と方法・構成、さらには参考文献、先輩の卒研の提示と、赤松先生の卒研ガイダンスは淡々と進む。「テーマの言葉の定義づけをしたら、キーワードを数個挙げて、データベースや雑誌などで文献検索を行ってください」。検索時の注意点も細やかに説明しながら、最後に自身の研究を紹介。ロンドンで発表した「京都の観光地訪問によるパーキンソン病の人のリハビリテーション効果」は、長年にわたって続けてきたパーキンソン病という難病に対する作業療法に、観光という介入法を実践した画期的な内容だ。卒研ができるレベルではないが、理想的な論文の好例であることは間違いない。「学会で発表となると、海外にも行けます。時には旅費付きですね(笑)」。

授業の最後にゼミ生が手を挙げた。「文献を探しても見つからなければ、すぐにテーマを変えるべきですか?」。先生は「まず私に相談して」と即答。「的を射た検索ができない場合がある。最初に興味をもった事柄を簡単に諦めないでほしい」。先生自身、学生時代の実習でパーキンソン病の患者さんを担当して以来、ずっと追究してきたという実体験がある。「初心、初心は大事にしてね」。経験が実証する金言だ。

B-ism
2017 December

の輩出を目指しているのです」。成果は色濃く現れ、いまや卒業生が各地で活躍中。就職先の施設や病院から評価を得て、求人も増加の一途だという。「施設から独立して起業を始めた卒業生もいて、学科の方針である地域に根ざしたOTとして活躍しています」。

そうしてようやく着手できる卒研だが、専念できるとはいえない。OTの国家試験が控えているのだ。これに合格しなければ、当然OTとして働けない。「本当に『ただの卒業生』になってしまう」。今年度は来年2月に実施されるが、卒研

提出日までに二度の模試がある。試験勉強と卒研、大変だが「先輩たちはしっかりどこなってきた」。同科は過去2年、試験の合格率が100%。「時間をかけて研究を深める姿勢も大切で、患者さんに療法を施し、見直し、また行うことを繰り返すOTには、臨機応変な状況判断とアログラムを迅速に組み立てる力が求められます」。短い時間でも実践的な理由がある。

試験続きのゼミ生ではあるが、三つのアドバンティージが備わっている。一つは研究の方法だ。「皆

さんは文献研究を行ってもらいます」。時間を要する調査研究や実験研究とは違う、自分の興味のあるテーマに沿った先行研究を洗い出し考察する文献研究は、短いスパンで仕上げられる。「先人の考え方や成果に触れる過程で、『気づき』を得て欲しい。自分の知らないなかた現実や事実に気づき、知識を得る喜びを享受するといふことに、卒研では重きを置いています」。二つ目は、赤松先生の存在。「どのタイミングでもいいので、相談に乗ってきて」。文献検索で迷つても、「はじめに」の書き方

に戸惑つても、先生を頼れば言いません(笑)」。実績はあるはずだ。

Professorial Seminars

“ただ者”ではない 作業療法士へ 卒研、国家試験、 就活すべてをサポート

保健医療技術学部 作業療法学科 教授

赤松 智子

佛教大学での作業療法士養成は、甘くない。学生には4年間の限られた時間のなかで、高い集中力と実行力の発揮が求められる。4回生ともなればなおさらだ。赤松ゼミでも、秋学期から始まり、直ちに取り組み、終えなければならない課題が待ち受けている。

赤松 智子（あかもとともこ）京都府出身。京都大学医療技術短期大学部作業療法学科卒業。国立療養所宇多野病院（当時）にて作業療法士としてリハビリテーションに従事し、母校に戻り後輩指導、地域保健・福祉活動に関わる。2006年度より現職。専門は神経筋疾患の作業療法、神経心理学。保健学博士（神戸大学）。主な著作・論文として「パーキンソン病の人に対する京都におけるヘルスツーリズム」（第30回リハ工学カンファレンス論文集）30号、2015年8月、「京都の観光地訪問によるパーキンソン病の人のリハビリテーション効果」（「佛教大学保健医療技術学部論集」第8号、2014年3月）、「カニツアを利用したパーキンソン病の人のリハビリテーション」（「第28回日本観光研究会学術論文集」2013年12月）、「生涯学習の場を利用した作業療法の紹介－佛教大学四条センターにおける実践から－」（「佛教大学保健医療技術学部論集」第6号、2012年3月）、「夢ベットを利用した高齢者見守り活動」（「第26回リハ工学カンファレンス講演論文集」26号、2011年8月）、「The effects of visual, auditory, and mixed cues on choice reaction in Parkinson's disease」（「Journal of the Neurological Sciences」269 (1-2), 2008）。



断つておぐが、作業療法学科4回生の卒研が進んでいないのは、何も遊んでいたからではない。「先週末まで実習があり、終わったところです」。本学の保健医療技術系教育の特長の一つに臨床現場を体験する実習の充実があるが、ここに作業療法学科はすごい。



1回生の病院・保健福祉施設見学実習に始まり、4回生では、春から夏にかけて行われる長期にわたる臨床実習、そして今秋の、在宅リハビリテーションや就労支援施設などの地域実習まで、実に多くの臨床現場を経験する。「秋まで実習しているのは、全国的にも珍しいでしょうね。研究も大切ですが、本学ではまだ作業療法の世界の実態を知り、スキルを磨くことが重要な資格者ではなく、現場を知り得た“ただ者”ではない作業療法士（Occupational Therapist ; OT）」

BU^TSUDAI

京都丹波の魅力を発信！

「京都丹波・写ガール隊」は、女性や若者の視点で京都丹波地域（亀岡市、南丹市、船井郡京丹波町）の豊かな資源を再発見し、フェイスブックなどを活用して魅力を発信しています。

A group of people in traditional Japanese clothing, including kimonos and obis, are gathered around a pink rectangular sign. The sign features a circular logo with a character inside, followed by the text "京都丹波・写ガール隊 結成式" (Kyoto Yamashiro Shigirl Team Inauguration Ceremony) and "2015年6月21日(土)" (Saturday, June 21, 2015). The background shows a map of Japan.

活躍しています。2016年度から朴会学部「公共政策学フィールドワーク実習」のクラスとコラボレーションし、地域情報の発信について学んでいます。具体的には公益財団法人「南丹市情報センター（南丹市のケーブルテレビ局）」と連携し、番組の企画・制作に参加する活動を始めました。昨年度までの番組はケーブルテレビで放送した後、YouTubeにアップしています。「たて新鮮！森の京都丹波！」と検索してみてください。第4回と第5回が私たちが担当した番組になります。

「京都丹波・写
ガール隊」は、京都府の事業として
2013年に結成されました。隊名
にガールが入つていて
ますが、京都丹波
波が大好きな男子
学生もガール隊
（男子部）として

2017年度

南丹市の企業で活躍する若者を取材し、地元で働く魅力を伝える番組の企画・制作を行っています。なぜ、このようなコンセプトになつたかというと、南丹市では若者の流出が問題になつてゐるからです。この問題の改善に貢献できるような番組を作りたいと思い、4月から活動をスタートさせました。政府の統計を調べて仲間と議論したり、現地でインタビューや取材を繰り返し、番組作りを進めています（2001年3月公開予定）。

A photograph of three individuals in traditional Japanese attire. From left to right: a woman in a pink kimono with a white sash; a woman in a dark blue kimono with a patterned sash, wearing a large, wide-brimmed straw hat; and a man in a purple kimono with a white sash. They are all making peace signs with their hands. The background shows a scenic landscape with mountains and a traditional wooden building.

活動紹介 introduction to activities



美山町のかやぶきの里で行われた「雪灯籠」^{ゆきとうろう}というイベントを題材にした番組作りに挑戦しました。事前準備から関わり、舞台裏や住民の想いを丁寧に取材しました。外国人親衛の取材や雪の中での取材はとても大変でしたが、漠然としたアイデアがどんどん形になっていき、これまでの学生生活では味わえなかった充実感がありました。ぜひ私たちが作つた番組を見て頂き、少しでも美山に興味を持つてもらえたならうれしいです。

2016年度



A photograph of three individuals in traditional Japanese attire. From left to right: a woman in a pink kimono with a white sash; a woman in a dark blue kimono with a patterned sash, wearing a large, wide-brimmed straw hat; and a man in a purple kimono with a sash. They are all making peace signs with their hands. The background shows a scenic landscape with mountains and a traditional building.

編集後記

編集後記

今回、学生編集ページを担当することになり、自分たちの活動を振り返ることは、少々照れくさいながらも、楽しかったです。活動を始めた頃の意気込みを思い出し、もっと活動を広げていきたいという気持ちになりました。この記事を読まれた方が、写ガール隊の活動に興味を持ち、動画サイト「YouTube」で映像を見てくださるとしても嬉しいです。

「写ガール隊男子部

写ガール隊の活動に興味があり、番組制作にも関わりたいけれど、男子学生は無理だうなあ、と思つていました。ですが、「写ガール隊には男子部があり男性の目線も必要」と聞いて、安心して参加しました。活動を通して、一番大事なことは「南丹市をPRしたい!」という気持ちで、性別は関係ないわかりました。

金光 貴大
社会学部
現代社会学科 3回生



メンバーから一言	
 <p>者</p> <p>高倉 綾乃 社会学部 公共政策学科4回生</p> <p>私が参加した理由は「地域のことを身近に感じるためには、フィールドワークをしたい」という思いからです。この活動を通して、座学だけでは得ることができない知識が身に付き、多くの人とのご縁にも恵まれました。なにより、友人と協力しあって一つのものを作り上げるという充実感を味わいました。学生生活最高の思い出です。</p>	 <p>辰巳 晶保 社会学部 現代社会学科3回生</p> <p>私は動画作りに興味があり、南丹市のPR動画作りに携われると聞いて写ガール隊に参加しました。取材の際は写ガール隊の仲間と佛教大学の美山荘で寝食を共しています。少し古くて少し怖い美山荘へ行くのは、おかげに会いそそうでもちょっと不安ですが、これからも、南丹市の魅力を広く伝えるために頑張ろうと思っています。</p>

Página

2017
December

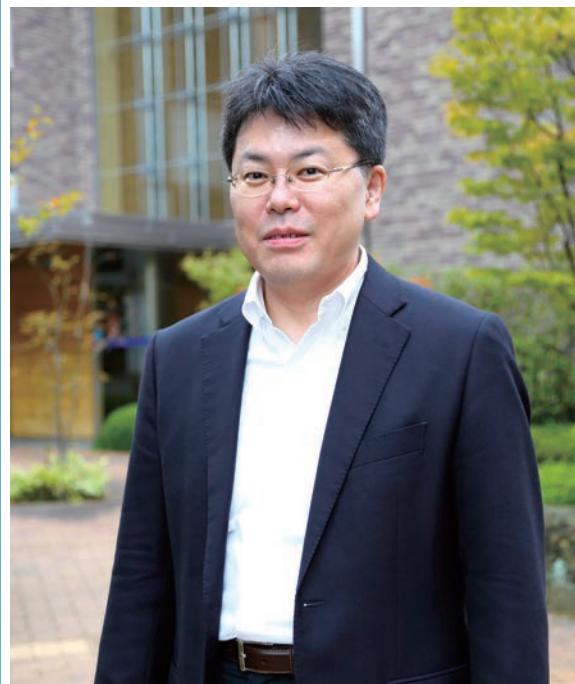


「時代が求める新しい行政とは」

行政と公共サービスのあり方を問う元国家公務員
社会学部 公共政策学科 准教授 大藪俊志



「ヒト・モノ・カネに限りがある今日、公共サービス=行政という単純な図式ではこの国は立ち行かない」。安全規制にせよ、地方自治にせよ、「多様化・複雑化する現代社会にふさわしい行政、公務があるはずだ」と、大藪俊志先生は思いをめぐらす。行政学は、私たちの暮らしに直結する学問だ。



大藪 俊志（おおやぶ としゆき）

東京都生まれ。1993年、中央大学法学部卒、国家公務員I種試験（行政）合格。93～99年、労働省、内閣官房内閣内政審議室に勤務。2001年、早稲田大学大学院政治学研究科修士課程修了。09年、早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程満期退学。08～12年、聖学院大学政治経済学部非常勤講師を経て、12年より本学社会学部講師。16年より現職。専門は、行政学・政治学。主な著作：論文に、「安全規制政策－科学技術の利用と規制システム」「ダイバーシティ時代の行政学－多様化社会における政策制度研究」（分担執筆）（早稲田大学出版部、2016年）、「地方自治体の行政運営－変化と課題－」「現代政治の理論と動向」（分担執筆）（晃洋書房、2016年）、「政策過程分析モデル」「コレク政策研究」（分担執筆）（成文堂、2007年）。

行政だけの仕事ではない
もう一つの柱は「自治体の行政」だ。地方創生が叫ばれ、地域の活性化が熱を帯びているかと思ひきや、行政の現場では疲弊が目につくと嘆息する。「人口減少や財政逼迫の中、地方公務員の定員削減もあり、増



討も進めつつ、食品、原子力も範疇にしながら理想的な安全規制政策を模索している。

公共サービスは

もう一つの柱は「自治体の行政」だ。地方創生が叫ばれ、地域の活性化が熱を帯びているかと思ひきや、行政の現場では疲弊が目につくと嘆息する。「人口減少や財政逼迫の中、地方公務員の定員削減もあり、増

え続ける業務や住民サービスに対応できない自治体もある」。首長のリーダーシップの下、公共サービスの維持・向上に努める自治体もあるが、限界が見え隠れする。そこで期待されるのが、行政外部との連携・協力だ。「企業、NPO、自治会などが、自治体行政の手の届かない分野に積極的に関わることで新たな公共サービスの展開が期待される」。公務の担い手の多様化に、地域社会の活路を見出す。

**職場は霞ヶ関
国家公務員から研究者へ**
前職は国家公務員。旧労働省で法令の立案、予算編成、省庁間の調整、大臣の国会答弁の作成など様々な仕事を経験した。「官邸でどこかの偉い人と間違えられたのかテレビにずっと映っていたこともありますた（笑）」。東京・霞ヶ関が職場だった。転機は90年代後半。バブル経済が崩壊したこの時代、中央省庁再編

研究の対象は大きくなつた。「規制政策」分野では主に安全規制に関する検討を行う。労働安全規制では、「労働者の健康と安全を守る政策」を検討対象とするが、昔と今では課題が異なる

行政に触れない日は一日としてない
手をかざせば出てくる水。通勤・通学に利用する道路の維持。住民票の発行。これらすべてに「行政」が関わっている。行政の活動に触れない日は一日もない。「これ、私たちが学問の魅力を伝え

るときの常套句です」。そう言って笑う大藪先生の専門が行政学だ。

は対応できない施策もあり、民間企業やNPO法人、住民の手も借りながら公共サービスを提供しようという潮流がある。時代の変化を反映する行政学・公共政策学において、大藪先生は珍しい経歴を持つ気鋭の研究者だ。

法律が追いつかない
求められる新たな規制の枠組み
研究の対象は大きくなつた。「規制政策」分野では主に安全規制に関する検討を行う。労働安全規制では、「労働者の健康と安全を守る政策」を検討対象とするが、昔と今では課題が異なる

るという。「以前であれば、機械に傷害防止装置を付けた規制が必要なのに、法律はそのスピードに対応しきれない」。そのため民間部門が主体となって安全確保を促進する取り組みも必要となる。企業が臨機応変な安全対策を推進することで法律の足らざる部分を法律の最低基準を守ってさえいれば良いという風土があり、企業独自の活動を促す仕組みが欠けている。一方アメリカやイギリスでは、産業界や学協会などのルールが国の規制基準として参照されるケースもあるなど、自主規制に対する意識が高い。海外との比較検

けないと、目を開かされましたね」。大学院、大学講師を経て現在に至る。

21世紀型の行政のあり方

研究に際しては「先入観に捉われない姿勢」を心掛ける。「福島の原発事故は確かに悲惨な事故であり規制に重大な不備もあったが、当時の関係者に悪意があったとは決めつけられない」。客観的に、公平公正な態度で資料にあたり、原因究明と将来像を展望する。同時に、21世紀型の行政、ガバナンスという文脈でも語られる企業や住民を含めた広いネットワークにおける行政の役割を、これからも問い合わせ続ける。「行政の目的は公共の福祉の増進にあります。改めて行政の存在意義を見直し、市民生活の質を高めるための行政活動についてさらなる考察を進めていきます」。

省から出向したある部署で他省庁の人たちと一緒に仕事をする機会を得たのです。省の利害を超えて働くのが楽しく有意義で。狭い殻に閉じこもっていてはいけません」。



母校の綾部市豊里町豊里中で教育
実習を行う城後さん(2017年)
6月11日京都新聞掲載)

自分を叱咤する学生生活。
夢があるから学び続けられる

50年の夢と、学びと。

元警察官、教師になり、教壇に立つ!



通信教育課程歴史学部歴史学科5回生
きごのぶゆき

2017年3月社会学部現代社会学科卒

まるやま・りょうすけ

城後さんは、なぜ教師になりたいと？

城後信之（以下、城後） 50年ほど前にここ豊里中学校を卒業しました。温厚で包容力があった当時の担任の先生に憧れました。その先生みたいになりたいと思つたんです。しかし、いろいろな事情もあって、高校卒業後、京都府警に就職し

城後信之さん64歳、本学通信教育課程歴史学科に在籍している。教師になるために、京都府警を定年退職した後、入学。今年5月には、教育実習で母校である綾部市立豊里中学校の教壇に立った。指導教員は、今年から教師としての一歩を踏み出した本学OBの圓山良介さん。濃密な実習3週間を振り返りながら、学ぶことの大切さ、教師として大事なことを、4ヶ月ぶりに再会した“師弟”が語り合う。



城後 楽しいです。講義も面白いですが、教師をめざす身としては「学校教育職入門」のレポートが特に印象深いです。相当の先生が、良い点、改善すべき点を細かく書き込んでくださって、とても勉強になりました。

圓山 城後先生はしっかりと準備されて授業に臨まれていて、生徒も興味津々でした。子どもたちも熱意に気づいたからこそ、厳しい反応になつたのでしょう。私からすれば、あの知識の豊富さは驚きですよ。九州地方に関する授業では、城後先生が実際に訪れた、教科書には載っていない場所の話もされていて、生徒も興味津々でした。



卷之三

来春、本学を卒業予定の城後さん。残念ながら、公立中学校の採用試験は年齢制限を超えており、現在は、私立中学校での採用や非常勤講師の道を模索している。「自分で決めた道ですから」。50年温めてきた夢をあきらめる理由はない。

城後 学ぶことは年齢は関係ないです。圓山 通信教育課程では私より高齢の70、80歳の方が熱心に学ばれています。私はその姿に刺激を受けながら、自分を叱咤しています。

では最後に、人生の先輩として、また先輩教師として在学生や受験生に一言お願いします。

城後 大学時代の4年間は、自由な時間でもあり、かけがえのない時もあります。授業や課外活動といった与えられる事柄だけでなく、自発的に何かを見つけて行動してほしい。そして多くの経験を積んでください。

城後 仕事をしながら、子育てしながら学ぶ通信生に共通するのは、夢や目標があるということです。それがなければ昌続きしない。まず夢を持つ。そして、その実現のために学ぶ員免許を取つて教壇に立つこと。そして、圓山先生のような立派な教師になることです。実現させます！

城後 パワー・ポイントやプロジェクトも使わわれています。
よね?

圓山 着任当初は挙手させてから答えていたんですが、中にはわかつているのに手を挙げられない生徒もいて、結果的にいつも同じ子が答えてしまいます。そこで、設問に対して隣の子と答え合わせをさせたり、グループで話し合って、代表者が答えるという方法をとりました。他人の意見を聞き入れて、自分の考えをまとめ、言葉にする。そんな

城後 最初の1週間は、圓山先生はじめ先生方の授業を見学させてもらいましたが、生徒への問題の投げかけ方やグループ討議に驚きました。実習中も注意されましたが、私は諦め

城後 教育美習先の学校は、学生自身が探すんですね。
そうです。初めは自宅近くの学校に問い合わせたのですが
年齢的に難しいと言われ、母校にお願いしました。校長先生と教頭先生に、自分の夢の出発点はこの中学校なんですね
とお伝えしたところ、快く引き受けたんださつたんです。

城後 私は何の違和感もなかったです。圓山先生にしつかり教わろうと意気込んでいました。

なり教育実習の指導、しかも、年齢も上で人生経験も豊富な方の担当と聞かされたときは「本当ですか?」と3回は尋ねました(笑)。

輝き Close up

活躍する学生たち



Listen UP

コラボレート

スペシャル対談

礼拝堂(水谷幸正記念館)にて初の結婚式を挙行

本学では、建学の理念である仏教精神に基づく開かれたキャンパス事業の一環として、今春に紫野キャンパスリニューアル完成落慶式を執り行いました。礼拝堂(水谷幸正記念館)にて結婚式を挙行いたしました。

6月25日、田中典彦学長兼宗教教育センター長が戒師を務め、親族や友人が見守るなか、新郎で本学大学院社会学研究科修士課程を修了した徳井公樹さんと新婦の小百合さんのお二人はご本尊の前で寿珠を交換し、お念仏とともに新たな生活を築いていく誓いを立てられました。



開式のことば	新郎新婦入堂
戒師入堂	
四奉請	
表白	
新郎新婦焼香	
戒師のことば	
行華	
聖水灌頂	
三宝帰依	
寿珠交換	
日課勸奨	
同唱十念	
誓いのことば	
成婚奉告	
請護念偈	
十念	
戒師退堂	
新郎新婦退堂	
閉式のことば	

結婚式の流れ

◆ 結婚式を終えての感想

佛教大学礼拝堂での初めての結婚式で準備が非常に大変でしたが、社会学部の先生方、大学院の先輩や後輩、またお手伝いいただいた在学生、事務局のご支援のお陰で、無事に式を終えることができました。一般的な式とは異なり指輪交換ではなく数珠交換を行いました。挙式してから半年が経ちますが、礼拝堂の前を通るたびに、昨日のこどのように思い出します。今後、多くの佛教大学と有縁の方方が結婚式を挙げるきっかけになれれば幸いです。

新郎 徳井公樹さん
(佛教大学社会学研究科社会学専攻修士課程修了)

佛教大学礼拝堂(水谷幸正記念館)結婚式 Buddhist Wedding Ceremonyのご案内
本学での結婚式は浄土宗の作法によっておこなう仏式(仏前)結婚式です。
礼拝堂の本尊阿弥陀如来に手を合わせ、多くのご縁と支えによって結ばれたことを喜び感謝しつつ、社会のために尽くすことを阿弥陀如来の御前で誓います。
佛教大学礼拝堂(水谷幸正記念館)結婚式の詳細は、
本学宗教教育センター<075-491-2141(代)>にお問い合わせください。

大政奉還150周年記念フォーラムを開催

12月9日、常照ホール(成徳常照館5階)にて、大政奉還150周年を記念してフォーラム「佛教大学×二条城」を開催しました。

歴史学部青山忠正教授による「教科書に載っていない大政奉還」、俳優の榎木孝明氏による「役者から見た幕末と明治維新」と題しての基調講演、「大政奉還と京都」をテーマに歴史学部八木透教授の「コードネームにより、榎木氏、青山教授、歴史学部齊藤利彥准教授による座談会を開催しました。

また、フォーラム後、事前に申し込まれされた高校生を対象に、青山教授の解説による二条城での「フィールドワークを実施しました。

なお、フォーラムの内容は次号(2018年6月発行予定)にてお伝えします。



歴史学部青山教授が佛教大学附属図書館所蔵の「寺田家文書」から大政奉還伝達記録を発見

江戸時代最後の將軍徳川慶喜が、慶応3(1867)年10月13日、二条城大広間で大政奉還の意向を各藩の重臣に伝えた際、越後新発田藩の家臣が經緯を克明に記録していたことが本学歴史学部青山忠正教授の調査で判明しました。当日の参加者による自筆の記録が確認されたのは初めてとされています。

青山教授は附属図書館所蔵の「寺田家文書」(越後国新発田10万石の大名、溝口家の京都留守居役となつた寺田喜三郎の記録)から大政奉還時の記述を発見。2017年3月に論文を発表しました。

1

「第51回鷹陵祭」開催

紫野キャンパスで、学生の祭典「鷹陵祭」を開催しました。

今年は第51回目の開催ということ)で、50回を超えても「飽きの来ない」、今までど

うこと)で、50回を超えても「飽きの来ない」、今までど

11月3日～5日の3日間、紫野キャンパスで、学生の祭典「鷹陵祭」を開催しました。

今年は第51回目の開催とい

うこと)で、50回を超えても「飽きの来ない」、今までど



3

社会学部が1回生対象に選挙啓発学習会を実施

社会学部が衆議院選挙投票日を前に、有権者として初めて投票を行う1回生を対象に、京都市北区選挙管理委員会事務局（京都市北区役所）の職員ならびに社会学部上田道明教授が講義し、学生は選挙の意義や重要性を学びました。



4

石川県と就職支援に関する協定を締結

本学と石川県が相互に連携、協力に努め、石川県へのU-Iターン就職の促進を図ることを目的に、11月に協定を締結しました。同県出身学生を中心に県内企業の情報等の提供、ならびに同県内企業への就職やインバーンシップの支援を行います。



B-isim
2017 December

「学まちコラボ事業」本学から2件採択

5

社会連携センタープロジェクトとして活動している「京都・高雄活性化プロジェクト」と、「子ども科学教室」（教育学部平田豊誠准教授ゼミ）の2件が「学まちコラボ事業」に認定され、門川大作京都市長から認定証が手渡されました。

「学まちコラボ事業」とは、京都市と公益財団法人大学コンソーシアム京都が協働して運営する助成事業です。

京都・高雄活性化プロジェクト

子ども科学教室

北野商店街（京都市上京区）にある本学の拠点施設で、地域の小学生が白衣を着て科学者に扮し、学生と一緒にわくわくするような理科実験を行なっています。



「第8回佛教大学ホームカミングデー」開催

鷹陵祭最終日の11月5日、紫野キャンパスで開催しました。今年も全国から約500名の同窓生が大学に帰ってきました。各学部名学科が同窓生向けのイベントを企画しながらも社会学部は開設5周年を迎え、記念講演会や祝賀会が催されました。

また、教職員から募った古本を販売し売上金すべてを「佛教大学未来支援寄付金」に寄付する「古本募金」やオリジナルグッズの販売を行いました。

鷹陵祭最終日の11月5日、紫野キャンパスで開催しました。今年も全国から約500名の同窓生が大学に帰ってきました。各学部名学科が同窓生向けのイベントを企画しながらも社会学部は開設5周年を迎え、記念講演会や祝賀会が催されました。

また、教職員から募った古本を販売し売上金すべてを「佛教大学未来支援寄付金」に寄付する「古本募金」やオリジナルグッズの販売を行いました。

19

夏休み特別体験教室
「名人になろう!」開催

7月29日・30日の両日、紫野キャンパス第1体育室（鷹陵館地下1階）にて、教育学部山口孝治教授が講師を務め、器械運動の楽しさを実感してもらう体験教室（小学校5、6年生対象）を開催しました。なお、当教室は、日本学術振興会が主催する「ひらめき☆ときめきサイエンスKA-KEN-HI～ようこそ大学の研究室へ～」採択事業です。



本 BOOK Information					
<p>「コレクション 戦後詩誌 第10巻 形而上の問い」 加藤 邦彦(文学部教授)編 ゆまに書房 2017年9月25日 27,000円</p>		<p>「田嶺戒講説」 齊藤 隆信(仏教学部教授) 佛教大学齊藤隆信研究室 2017年8月18日 1,620円</p>		<p>「戦後日本教育方法論史」上・下 田中 耕治(教育学部教授) ミネルヴァ書房 2017年2月20日 各3,780円</p>	
<p>「基礎ゼミ 宗教學」 大谷 栄一(社会学部教授)ほか編著 世界思想社 2017年4月20日 2,052円</p>	<p>「教育をよみとく 教育学的探究のすすめ」 田中 耕治(教育学部教授)ほか編著 有斐閣 2017年4月30日 1,620円</p>	<p>「戦後日本教育方法論史」上・下 田中 耕治(教育学部教授) ミネルヴァ書房 2017年2月20日 各3,780円</p>	<p>「明治維新を読みなおす 同時代の視点から」 青山 忠正(歴史学部教授) 清文堂出版 2017年2月13日 1,836円</p>		
<p>「社会保障レボリューション ーいのちの皆・社会保障裁判ー」 鈴木 勉(社会福祉学部教授)、 井上 英夫(同学部客員教授)ほか編著 高蔵出版 2017年9月30日 2,160円</p>	<p>「老後不安社会からの転換 介護保険から高齢者ケア保障へー」 岡崎 祐司(社会福祉学部教授) 大月書店 2017年11月15日 2,592円</p>	<p>「テレビ番組海外展開60年史 ..文化交流とコンテンツビジネスの狭間で」 大場 吾郎(社会学部教授) 人文書院 2017年6月20日 4,104円</p>		<p>「コンテンツビジネスの経営戦略」 公益財団法人情報通信学会 コンテンツビジネス研究会 主査:大場 吾郎(社会学部教授) 中央経済社 2017年6月17日 3,024円</p>	<p>「ケアの実践とは何か 現象学からの質的研究アプローチ」 田野中 恭子 (保健医療技術学部講師)ほか共著 ナカニシヤ出版 2017年9月30日 3,024円</p>
					<p>「何度でもやりなおせる やりなおす力」 漆葉 成彦(保健医療技術学部教授)ほか編著 クリエイツかもがわ 2017年4月22日 2,160円</p>
<p>B-ism</p>					<p>「何度でもやりなおせる ひきこもり支援の実践と研究の今」</p>



今年の強化指定スポーツ 上競技部女子中長距離部門)

硬式野球部は、京滋大学野球秋季リーグ戦において、6季ぶり52回目のリーグ優勝を、全てのチームから勝ち点を挙げる完全優勝で果たしました。続く「明治神宮野球大会」への出場を目指しましたが、関西地区代表決定戦で敗退しました。

陸上競技部女子中長距離部門は、関西学生対校女子駅伝で7位に終わりましたが、12月30日「富士山駅伝」に出場します（フジテレビ系列で全国生中継）。

今後も引き続き、ご声援をよろしくお願ひいたします。



